

令和8年3月

保護者の皆様
地域の皆様

世田谷区立瀬田小学校
学校長 日高 玲子

前年度の改善方策について実行した改善結果

前年度の改善方策の結果について次の通り御報告します。

1. 学習指導について

【方策】

- ・教員の黒板の板書や児童のノート・プリントへの記述、タブレットの活用法については更に効果的な工夫を行っていく。
- ・昨年度に引き続き、観察授業や研究授業の事前・事後等の授業を全教員に公開し、授業力向上を図る。

【結果】

- ・教員の ICT の有効活用が児童の学習意欲を引き出すことにつながった。児童もほぼ全教科でタブレットを活用した学習を行っている。別の用途に使ってしまう児童への対応については、別途、保護者と連携を図っている。

生活指導について

【方策】

- ・毎月の生活目標について、全校朝会での周知とする。
- ・瀬田小学校「おもいやり5か条」の取組を今年度の重点目標に掲げ、全校児童の定着を図る。
- ・道徳や特別活動の授業を中心に、協働的な学びの中でルールやマナーの遵守について考える機会を増やす。

【結果】

- ・生活目標について、ポスターの掲示や寸劇等を通し、分かりやすく伝えることで、児童の意識が高まってきている。
- ・ルールやマナーの遵守については、今後も丁寧な取組が必要。

2. 学校行事について

【方策】

- ・瀬田スポーツフェスティバルは、学び舎である瀬田中学校の校庭を使用し、10月に開催。
- ・始業前の朝遊び、給食後の昼休みも瀬田中学校の校庭を開放していただき、校庭遊びを実施する。
- ・12月は音楽会をはじめ、ゲストティーチャーや体験学習等、新校舎を存分に謳歌する取組を検討する。

【結果】

- ・今年度も瀬田中学校、地域の方々から多大なる協力をいただくことができた。引き続き継続できるよう、学び舎の連携を深めていく。
- ・音楽会は、体育館で全校児童が鑑賞できるようにしたことで、児童の一体感が高まった。

3. キャリア教育について

【方策】

- ・日常の学習を通し、自分自身の生き方について深く考える機会を積み重ねていくとともに、ゲストティーチャーや体験的な学習を積極的に取り入れていく。「振り返り」を大事にし、主体的な学びにつなげていく。
- ・クラブ、委員会、縦わり班活動等の異学年交流、高学年の中学校の授業や部活動見学、本校の学校行事に中学生ボランティアの参加を通し、身近な存在から将来を思い描く機会を増やす。
- ・学校ホームページやすぐー等で、取組について随時、配信する。

【結果】

- ・どの授業でも「振り返り」を大切にしたこと、体験的な学習や様々なゲストティーチャーからの学びにより多様な考え方、生き方に振れる機会を一層大切にすることで、自分自身を見つめ、将来への見通しをもつ機会となった。一度きりでなく、継続的な学びにつなげていく必要がある。

4. 教職員について

【方策】

- ・児童の悩みを担当が、一人で抱えるのではなく、生活指導や特別支援、教育相談等について、様々な委員会で児童の状況を全教職員で共有している。児童にも、どの先生（スクールカウンセラーも含め）に相談してもよいことを様々な場面で伝え、引き続き、安心して学校生活を送れるよう配慮する。

【結果】

- ・児童・保護者共に、前年度より、スクールカウンセラーへの相談が増えた。担任だけでなく、学年、管理職等、悩みを話せる大人が複数いることを理解しており、状況に応じて様々な大人に話をする児童が増えた。

5. 学校全般について

【方策】

- ・新校舎での学びを楽しみにしている児童・保護者が多い。各教室が一人ひとりにとって安心できる場所であるよう、今後も学級経営の改善・向上に努める。
- ・保健室や相談室、校長室等の別室で一時的にクールダウンし、自分のペースを取り戻せるよう支援する。
- ・学校ホームページ等で、「学び舎」の交流を積極的に紹介していく。

【結果】

- ・新校舎でのルールについて都度、周知し、見守る大人を増やしたことで、児童に大きな事故なく、前向きに学校生活を送ることができた。保健室や校長室、相談室ほっとルーム等、別室でのクールダウンも一定の成果を見ることができた。

6. 学校からの情報提供について

【方策】

- ・学校だよりをすぐー配信と学校ホームページへの掲載に絞り、内容の充実とより一層丁寧な情報発信を行う。

【結果】

- ・毎月、全学年からのお知らせを盛り込むことで、どの学年の様子も保護者に伝わるようになった。学び舎の取組については、学期に1回程度、学校便りの中で、活動の様子を盛り込んだことで、保護者や地域の理解が深まった。

7. 学校運営について

【方策】

- ・年度初めの保護者会にて、校長の経営方針を示し、丁寧に説明するとともに、毎月の学校だよりで学校の取組について紹介する。
- ・学校評価関係者アンケートの協力について、広く周知するとともに、リマインドを重ね、回収率を上げる。

【結果】

- ・学校経営方針を丁寧に伝え、毎月の学校だより「学校運営委員会」の内容を簡潔に示すようにした。
- ・学校関係者アンケートの協力について、学校だよりで複数回周知、すぐーるでのリマインドを行ったが、回収率は昨年度より、減少した。

8. 学校と家庭の連携について

【方策】

- ・毎月の PTA 運営委員会に管理職が参加し、PTA 活動の取組や課題について共有する。
- ・毎月の学校運営委員会で地域に向けて情報提供し、学校行事や地域行事のサポートを依頼する。
- ・給食試食会等、保護者の興味関心に応える取組を PTA と企画する。

【結果】

- ・PTA の取組を地域の方々に理解していただき、瀬田スポ等、行事の運営で、多大なサポートをいただくことができた。

10. 地域との連携について

【方策】

- ・学校協議会や合同学校協議会、学校運営委員会について、それぞれの役割と適切な連携を図る。
- ・毎月の学校だより「学校運営委員会報告」の欄を設け内容を簡潔に掲載する。

【結果】

- ・「学校運営委員会」の活動について、広くご理解をいただくことができた。令和8年度から、地域を支える新たな仕組みとして「学校運営協議会」が発足する。ここでの情報を学校便りや保護者会の場で周知していく。

11. 学校の安全性について

【方策】

- ・引き続き、改築工事の定例会議で確認した内容を学校運営委員会で報告、共有する。
- ・今後も水害時、震災時について、地域と連携し、避難訓練を開催する。
- ・学校の避難訓練では、第二避難所への避難や引き渡し訓練において瀬田中学校で実施する。
- ・新校舎でのルールを BOP やスポーツ団体等に周知・徹底し、安全管理に努める。

【結果】

- ・無事に新校舎での1年を終えることができた。校舎内の安全点検、安全指導はこれまで通り丁寧に実施する。校庭の完成の令和8年秋まで、引き続き、瀬田中学校と連携の上、中学校の校庭を借用し、避難訓練を実施する。

12. 本校の独自目標について

【方策】

- ・今後もそれぞれの立場で「児童のためにできること」を考え、共有・協力していく。

【結果】

・全教職員が児童、保護者、地域との丁寧な関わりを意識し、よりよい瀬田小学校をともに築く主体者であることを主に行事を通して実感することができた。

13. 自由記述欄について

【方策】

・学校全体への意見だけでなく、個別事象もあるため、全体公開はしないものの、お一人お一人の学校への要望、期待を具体的に把握することができた。真摯に受け止め、今後も児童・保護者の思いに寄り添った対応に尽力していく。

【結果】

・今年度も教育活動についての前向きな提案、教職員への励ましやお褒めの言葉を多くいただき。真摯に受け止め、改善・向上に努めていく。

14. まとめ

【方策】

・学校評価関係者アンケートの協力について、1学期（6月）、2学期（10月）の学校だよりにて協力依頼をかけ、締め切り間際まで「すぐーる」での周知、リマインドを重ね回収率の向上に努める。

【結果】

・昨年度よりも回収率が減少した。アンケートの提出についての負担軽減を模索するとともに、回答したいという意欲につながる教育活動を推進していく。